

「ジェロントロジー」をご存知ですか

ジェロントロジーとは老年学のことです。2030年には我が国の3人に1人は65才以上になります。日本が世界で最初の幸せな長寿国家になれるかどうかはあと20年足らずの時間しかありません。しかし我国の政策は2025年までしか立てられていませんし、その内容も曖昧でお粗末な限りです。

Aging in placeという言葉があります。これはいくつになっても住み慣れた地域に安心して自分らしく生きるという意味ですが、さて皆様いかがでしょうか、安心できますか。人生は子供、大人、高齢者、さらに加えて第四期である超高齢者（期）が注目されています。この超高齢者社会を豊かにするためにジェロントロジーで考えていく、90年の長い人生を個人のレベルではどう生きるか、健康で幸せに生きる社会的インフラをどうするかと云ったサクセスフル・エイジングの理念、どこかはまゆう会の理念に似ていませんか。これは長寿、健康、経済がリンクする、いずれもわれわれ医療関係者のモチベーションの向上が求められています。

自分だけ、自分達だけでは幸せになれない社会を考えてみて下さい。いつでも悩みがたらい廻しされることなく相談できる、自分の扱われ方を相談できるワンストップ相談窓口。調査によれば15年後に男性が変わらず元気でいられる一番大きな要素は社会活動であり、女性は精神的な自立といわれています。

スウェーデンでさえ固唾を呑んで見守っているもう待ったなしの我国の超高齢社会のゆくえ、今政治が激しく揺れ動き、官僚は黙って傍観、彼らにまかせたままでいいのでしょうか。新たな選択が始まっています。

参考書

「2030年超高齢未来」

東京大学高齢社会総合研究機構

東洋経済

（はまゆう倶楽部図書）